

20°C~30°C 位が適当であるといわれている。そして還元極点は20分~30分で、はじめに還元が遅いと思われる切片でも20分ちかくで急に褐色調が強まることもあるので、過染せぬよう、慎重な観察が必要である。われわれは大型シャーレに微温湯(26°C~30°C)を入れ、この中に還元液を盛った容器を浮べ、常に温度に注意しつつ切片の呈色を観察している。

7) 蒸留水, 5分。

8) 鍍金, 約10分。

鍍金液は 10ml の蒸留水に 1.0% 塩化金液を 20~25滴加えて作る。

9) 蒸留水, 数分。

10) 定着, 数分。(ロダンアンモン, チオ硫酸ナトリウム液)。

11) 蒸留水をとおり, ついで脱水, キシロール, 封入。

(水洗後, 大型シャーレに水を盛り, この中に切片を浮かべ, 一枚あてスライドグラスに伸展, 余分の水を切り, 暫くスライドグラスを立てかけておき, 孵卵器内で十分乾燥後, キシロールをとおり, バルサムで封入している²⁾。この方が操作として簡便で, 十分目的を達し得る。

染めあがり

神経原線維や, 軸索は, 黒くくっきりと染めあがってくる。その他のものは, 全く染らないか, 淡褐色, 淡黒色にぼやけてみえる。

末梢神経や脳を対称として, 一緒に鍍銀することにより, ある程度の染色結果の判定とし得るが, 絶対のものではない。還元中, 還元液に入れたままの切片を, 顕微鏡弱拡大視野で, その染色程度をしらべてみるのも一法である。この染色法の利点は, 他の方法にくらべ還元が除々にすすむことで, 一度に多数の切片を扱い得ることであり, また還元水洗後, 切片をスライドグラス上で鏡検し, 染色不足のものは, 改めて2項以下の操作を繰返して行なうことができる点である。なお染色に使用する硝子器具類はすべて化学的清浄なものであることは言をまたないし, 硝子棒は常に蒸留水で洗って, 清潔なガーゼで拭いた後に次の液に入れるなどの細心の注意が必要である。

文 献

- 1) 小林忠義他: 病理組織標本の作り方。第2版219~226頁, 医学書院, 1964.
- 2) 向井紀二他: 新しい組織学研究法。283~289頁, 医歯薬出版, 1959.
- 3) 瀬戸八郎: 人の知覚。医学書院, 1957.
- 4) 鈴木清: 脳神経領域。5, 184~192頁, 1952.

／ ニ ュ ー ス ／

小島三郎記念会

記念文化賞を設定

先に発足した「小島三郎記念会」では, その記念事業の一つとして「小島三郎記念文化賞」につづき「小島三郎記念技術賞」を設定したが, その詳細が運営委員長, 福見秀雄氏より発表された。

これは, 前国立予防衛生研究所長故小島三郎博士が生前衛生検査技師に対する深い関心と, 衛生検査技師法成立に対する尽力, 日本衛生検査技師会の設立など衛生検査方面の多年にわたる遺徳を永く記念して設定された。またこれは小島先生が日頃深い関心を寄せ, 常に指導を惜しまなかった衛生検査(臨床検査を含む)業務に携わっている人びとを対象とし, 衛生

検査業務に多年従事し, 後進の指導に功労のあったもの, あるいは検査術式の考案, 改良などに功績のあったものに毎年1回贈られるもので, 記念会が委嘱した選考委員が審査を行なう。推薦は記念会が関係領域の学識経験者に委嘱するのを原則としている。

本年度に関しては, 審査の対象を特に微生物検査関係に業績のあったものとし, 5~6名が選出される予定である。

なお, 小島三郎記念会事務局は日本栄養化学株式会社(東京都文京区本郷1の33の8)に設置されている。